

〔科目名〕 経済導入演習	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 専門科目 演習科目																					
〔担当者〕 樺克裕、黄年宏、七宮圭、 橋本悟、山本俊（五十音順）	〔オフィス・アワー〕 各教員より別途指示があります。	〔授業の方法〕 講義・演習																					
〔科目の概要〕 <p>1年次の春学期に「経済学基礎論」で経済学の入門的基礎固めが終了したみなさんは、これから経済学のさまざまな専門科目を学んでいくことになります。経済学が取り扱う問題はきわめて多岐にわたっており、その内容も高度です。したがって、将来どのような方向を目指して学習を進めていくのかをある程度見定めておかないと、大海原の中を無駄に漂流する如くなる恐れがあります。本演習は、目前にどのような世界が広がっているかを少しでも垣間見ってもらうために準備されています。言い換えれば、本演習は経済学科の専門科目群を学んでいくための動機付けの役割を担っています。</p> <p>さまざまな専門分野を持つ5人の担当者が、それぞれの専門分野に関連するトピックで演習を行うことにより、学生諸君の知的好奇心をできるだけ高めることを目的にしています。各担当者は3回の演習を担当し、ローテーションをすることによって合計で3回×5人＝15回の演習が行われます。なお、担当者の担当順序はクラスによって異なります。</p>																							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 <p>経済導入演習は、各教員の専門分野の入門編として授業が展開されます。内容は、2年生以降の専門科目と関連するものも多いので、今後の各自の履修モデルの構築（授業科目の選択）に多いに役立つはずです。</p> <p>また、2年生秋学期以降は、経済演習が始まります。経済演習では、各教員の専門分野を基に、学生が演習の所属を自ら決めていきます。その決定の際に、経済導入演習の授業内容は参考になることが多いと思います。</p>																							
〔科目の到達目標〕 <p>経済導入演習で展開される各教員の専門分野の入門編の授業を通じて、2年生以降、学生が主体的に履修モデルを決定し、経済演習Ⅰの所属決定に際して、ゼミの内容について理解した上で、自発的に決定できるようになることがこの科目の目的です。このことから、</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 各教員の専門分野の入門部分の内容を理解すること ● 各教員の専門分野の違いを理解すること <p>の2つを科目の到達目標とします。</p>																							
〔ディプロマ・ポリシー（DP）との関係〕																							
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="4">学部</th> <th colspan="3">学科</th> </tr> <tr> <th>DP1</th> <th>DP2</th> <th>DP3</th> <th>DP4</th> <th>DP1</th> <th>DP2</th> <th>DP3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>			学部				学科			DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	○	○		○	○	○	○
学部				学科																			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3																	
○	○		○	○	○	○																	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 <p>昨年度は「資料が分かりやすい」などの優れた点に関するコメントを多数いただきました。今年度もそのような状況になるよう工夫・改善しようと思います。</p>																							
〔教科書〕 各教員より指示があります。																							
〔指定図書〕 各教員より指示があります。																							
〔参考書〕 各教員より指示があります。																							
〔前提科目〕 特にありません。																							
〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等） 各教員が3クラス統一の基準で評価します。教員毎の評価を合算して、全体の評価とします。各教員の課題、評価方法については、下記の各教員の内容の説明に記載されています。																							

担当教員: 権 克裕	〔テーマ〕 財政学入門 政府の経済活動である財政について、基本から説明します。
	〔オフィス・アワー〕 授業中にお知らせします。
	〔演習概要〕 政府の経済活動である財政は、経済活動の中で、非常に大きな役割を担っています。この演習では、財政の基本的な仕組みである租税、予算、国債や地方財政の概要等について説明し、テーマに沿って出題する例題を考えることで財政に対する理解を深めて貰います。
	〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 各回の例題の応用問題をレポート課題とし、それにより評価します。詳細は3回目の授業中に説明します。
	〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 この授業は、科目の概要にもあります通り、今後の履修モデルや2年生秋学期から始まる経済演習Ⅰの選択に関して、概要を示す役割を担っています。私の演習を通じて、現在の経済学的な(特に財政学的な)課題について解説しますので、学生の皆さんには、経済学の理論だけでなく、幅広く社会に関心を持って頂ければと思います。
	〔実務経歴〕 旧通産省
	〔教科書〕 ありません。授業は配布するレジュメに沿って進行します。 〔その他〕
担当教員: 黄 年宏	〔テーマ〕 物語で学ぶ経済学の役割とその重要性
	〔オフィス・アワー〕 開講時に知らせる。
	〔演習概要〕 本演習では、歴史的エピソードや社会的トピックを“物語”として読み解き、潜む経済メカニズムを考察することで、因果関係がどのように作用するのかを解明することを目指す。例えば、アメリカで起きた「ロー対ウェイド判決」を題材に、経済学の視点から〈中絶の権利と望まれない子ども〉を考察し、政策が人的資本形成に与える影響を検討する。さらに、冷戦下における核兵器開発の物語を取り上げ、ゲーム理論を用いて〈核兵器保有国が“恐怖の均衡”に至る過程〉を分析し、協調と対立のインセンティブ構造を解明する。最後に、“美しさ”が賃金格差を生むという労働市場の事例を通じて、外見資本と生産性の相互作用を検証する。
	〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 詳しくは授業中に知らせる。
	〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 学生の皆さんには、しっかりと講義を聞き、内容を理解することを望む。私も、皆さんが積極的に学び、経済学の基礎を確実に身につけられるよう全力でサポートする。一緒に頑張りましょう。
	〔実務経歴〕 該当なし。
	〔教科書〕 特に指定しない。演習で適宜紹介する。 〔その他〕 なし。
担当教員: 七宮 圭	〔テーマ〕 経済学のための確率入門
	〔オフィス・アワー〕 509 研究室。曜日・時間は研究室前に掲示します。
	〔演習概要〕 統計学やファイナンスなどの経済学の科目で必要となる確率の基礎知識について講義します。

	<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 各授業終了前に実施する確認テスト。</p> <p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 確率の考え方と計算の仕方を中心に講義をします。</p> <p>〔実務経歴〕 なし。</p> <p>〔教科書〕 なし。毎回、資料を配布します。</p> <p>〔その他〕 なし。</p>
担当教員: 橋本 悟	<p>〔テーマ〕 ビジネスエコノミクス</p> <p>〔オフィス・アワー〕 木曜日3時限(13時から14時30分)</p> <p>〔演習概要〕 この授業では、具体的な産業を取りあげて、その概要を学習する。今年度は、以下の3点を学習する。 1. 電力産業を中心とした環境ビジネスやカーボンニュートラルに向けての取り組み 2. コロナ禍とコロナ後の航空ビジネス 3. 公益事業のレジリエンスの紹介 近年、ビジネスを取り巻く環境は大きく変化しており、特にコロナ後はその変化が著しい。そこで、環境・コロナ・レジリエンスに焦点をあてて、最近のビジネスの動向を紹介する。</p> <p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) Google Form を用いて試験をする予定。詳細は初回の授業で説明する。</p> <p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 入門レベルの経済学の知識があると、授業が理解しやすいと思う。</p> <p>〔実務経歴〕 なし。</p> <p>〔教科書〕 なし。 (参考書) 草薙・橋本編著『インフラレジリエンス』「中央経済社」(2025)</p> <p>〔その他〕 特になし。</p>
担当教員: 山本 俊	<p>〔テーマ〕 暮らしの中の金融</p> <p>〔オフィス・アワー〕 授業にてお知らせします。</p> <p>〔演習概要〕 皆さんの暮らしと密接な金融のテーマとして、(1) 資産計画と金融における自然対数の底「e」の意味、(2) 人生の3大資金と住宅購入、(3) 地域金融の持続可能性の3つに焦点を充て、私たちの暮らしと関連付けて考えてみましょう。</p> <p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 小テスト(もしくはレポート等の課題)によって評価します。 授業の初回で連絡します。</p> <p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 皆さんが自分自身の暮らしと金融が密接であることを再認識できるよう心がけます。</p> <p>〔実務経歴〕 なし。</p> <p>〔教科書〕 なし。授業資料を配布します。</p> <p>〔その他〕</p>